



地域を見つめる経済情報誌

長野しんきん 北信地区経済動向

2025
令和7年
4-20
No.632

「すかい」(sky: 空)は、北信地区経済の空模様を展望しながら、経済面からとらえた身近な情報をおとどけます。

月例調査レポート



中野市 「大灯籠びな行進」

北信濃に春を呼ぶ伝統の「中野ひな市」が今年も開催され、3月31日の夕刻には「大灯籠びな行進」が催行されました。「大灯籠びな」は和紙で土人形の形を模したもので、内側からライトアップされています。出発式を終えて、あたりが暗くなるころ、地元の皆さんが「ごてんじん(御天神様)」「踊り子」「ふぐ乗り大黒天」といった「大灯籠びな」を威勢よく担ぎ、まちなかを練り歩きました。

- 長野しんきん 月例調査レポート 2
- 企業アンケート「価格転嫁」① 6
- 生活者アンケート「物価高の影響」① 9
- 北信濃の旅人(1) 河鍋暁斎 10

「すかい」は長野信用金庫のホームページでカラー
にてご覧いただけます [長野信用金庫 すかい](#)



概況 全産業

生産は2カ月ぶりの上昇 前年同月比は6カ月ぶりの上昇

◇2025年1月の長野県鉱工業指数

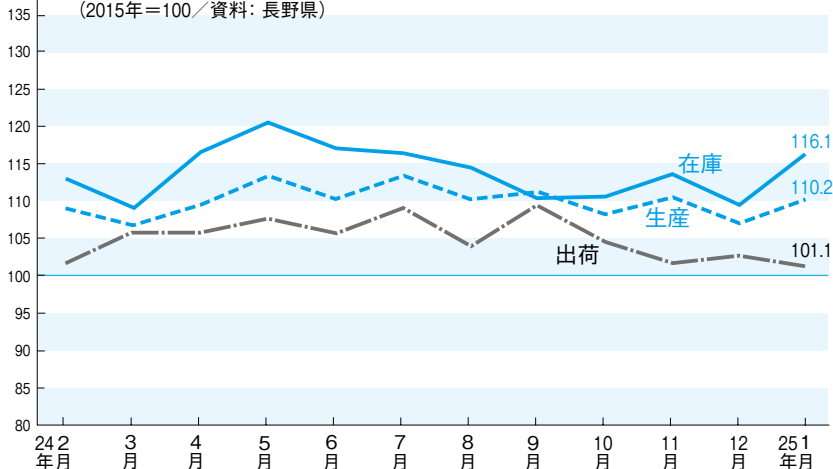
(速報：季節調整済指数)

生産は110.2(前月比+3.1%)で2カ月ぶりの上昇、出荷は101.1(同▲1.6%)で2カ月ぶりの低下、在庫は116.1(同+6.0%)で2カ月ぶりの上昇となりました。

◇前年同月比(原指数)

生産は104.5(前年同月比+5.0%)で6カ月ぶりの上昇、出荷は94.2(同▲3.3%)で6カ月連続の低下、在庫は120.2(同+4.8%)で14カ月ぶりの上昇となりました。

●長野県鉱工業の生産・出荷・在庫指数(季節調整済)の推移
(2015年=100/資料：長野県)



[生産] 上昇…情報通信機械、輸送機械、化学など11業種

低下…はん用・生産用・業務用機械、電子部品・デバイス、紙・紙加工品など6業種

[出荷] 上昇…輸送機械、情報通信機械、電子部品・デバイスなどの11業種

低下…はん用・生産用・業務用機械、電気機械、紙・紙加工品など6業種

[在庫] 上昇…はん用・生産用・業務用機械、食料品、化学など8業種

低下…電子部品・デバイス、窯業・土石製品、金属製品など7業種

月例調査

全産業の「売上高DI」は悪化

◇3月調査による[北信地区の経済状況]

全産業(不動産業・旅館業除く)の売上高前月比は、増加した企業が29.2%、不変が40.5%、減少

が30.3%となり、売上高DI(増加-減少)は▲1.1となりました。前月調査時の▲1.0から0.1ポイント悪化しました。

●売上高(生産高・施工高)前月比「増加・不変・減少」割合(%)

矢印は前月調査比 (3ポイント以上の動き) 増加 → 不変 ⇄ 減少
改善 ⇄ 悪化

全産業 (不動産業・旅館業を除く)	前月			今月	変化	回収率
	増加	不変	減少	増加	不変	減少
前月	26.8	45.4	27.8			
今月	29.2	40.5	30.3			
製造業	26.9	37.3	35.8			
建設業	28.1	40.6	31.3			
卸小売業	25.6	48.8	25.6			
サービス業	33.3	33.3	33.3			
輸送業	50.0	37.5	12.5			
外食業	57.1	28.6	14.3			

198社(回収率90.0%)	30人未満 71.2%	30人以上 28.8%
195社(回収率89.0%)	30人未満 72.3%	30人以上 27.7%
67社(回収率87.0%)	30人未満 64.2%	30人以上 35.8%
64社(回収率91.4%)	30人未満 85.9%	30人以上 14.1%
43社(回収率93.5%)	30人未満 79.1%	30人以上 20.9%
6社(回収率85.7%)	30人未満 50.0%	30人以上 50.0%
8社(回収率88.9%)	30人未満 37.5%	30人以上 62.5%
7社(回収率70.0%)	30人未満 42.9%	30人以上 57.1%

製造業

食料品、金属加工品、一般機械、電気機械、自動車部品、精密機械

「生産高DI」金属加工が改善するも、全体は悪化

製造業の生産高前月比は、増加した企業が26.9%、不変が37.3%、減少が35.8%となり、**生産高DIは▲8.9**となりました。前月調査時の▲4.3から4.6ポイント悪化しました。

●生産高前月比「増加・不変・減少」割合(%)

製造業	前月	25.7	44.3	30.0
	今月	増加 26.9	不変 37.3	減少 35.8
食 料 品	20.0	26.7	53.3	
金 属 加 工	15.4	30.8	53.8	
一 般 機 械	28.6	28.5	42.9	
電 気 機 械	33.3	33.3	33.3	
自動車部品	-0.0	33.3	66.7	
精 密 機 械	42.9	42.8	14.3	

【業種別】 **改善**…金属加工
悪化…食料品・一般機械・電気機械・自動車部品・精密機械

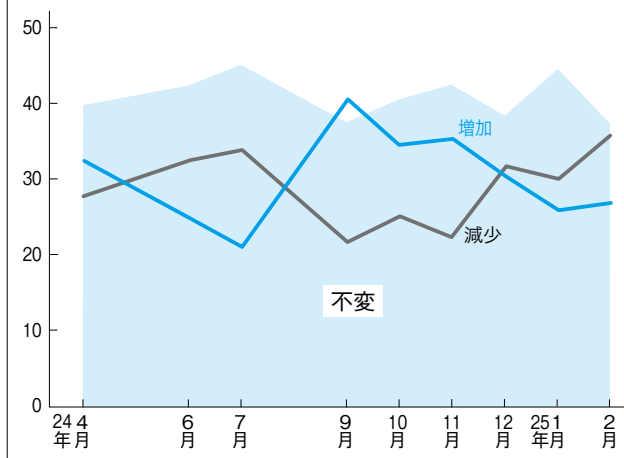
【機械稼働】 上昇企業の割合 (10.1%) → **9.2%**
 低下企業の割合 (24.6%) → **23.1%**
 機械稼働状況(前月比) **横ばい**
 機械稼働率 (78.0%) → **79.5%**

【受注状況】 増加企業の割合 (7.2%) → **12.1%**
 減少企業の割合 (30.4%) → **24.2%**
 受注量(前月比) **上昇**
 受注残高(2.1ヵ月) → **2.1ヵ月**

【受注基調】 上昇企業の割合 (7.1%) → **13.4%**
 下降企業の割合 (28.6%) → **20.9%**
 受注基調(前月比) **上昇**

●生産高前月比「増加・不変・減少」割合の推移

(%/資料:当金庫)



企業からのコメント

☆★大手半導体メーカーの先の見通しが立たず不安な状況が続いている。新規開拓を早急にし、売上げに結びつけたい。
 (精密板金加工)

☆前年7～12月にかけて10%程度の製品値上げを実施した。1月以降、製品価格は安定している。需要は1～5月低調、6～12月増加を見込む。

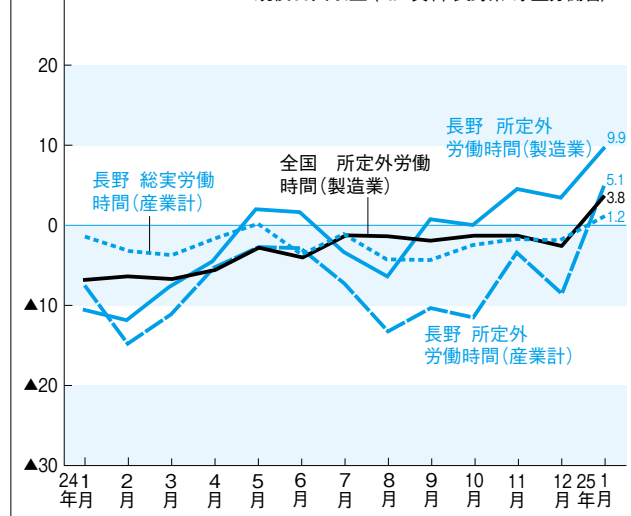
(印刷・紙器)

☆★大手契約の仕事の受注が始まった。現在、人員不足が一番の課題である。

☆県知事も力を入れている県の「そば県プロジェクト」が、徐々に具体的な動きになってきた。国の内外問わず信州そばの魅力が広まり、売上アップにつながればと期待している。
 (以上、そば)

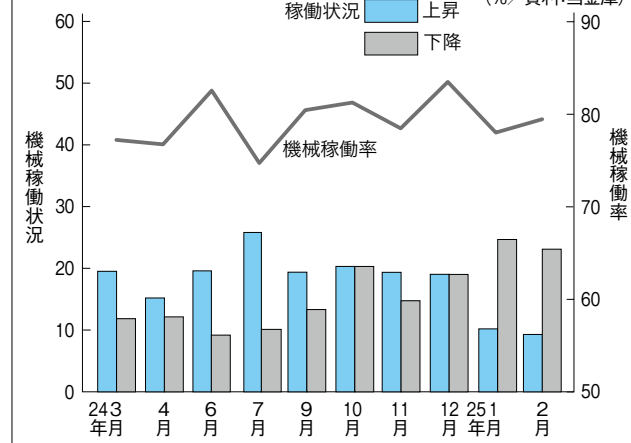
●長野県の労働時間の動き<前年同月比>

規模30人以上(€/資料:長野県・厚生労働省)



●機械稼働率と機械稼働状況前月比「上昇・下降」割合の推移

(%/資料:当金庫)



建設業

総合建設、土木工事、建築、各種設備

「施工高DI」総合建設、各種設備が改善して、全体も改善

概況

建設業の施工高前月比は、増加した企業が28.1%、不変が40.6%、減少が31.3%となり、**施工高DIは▲3.2**となりました。前月調査時の▲12.1から8.9ポイント改善しました。

●施工高前月比「増加・不変・減少」割合(%)

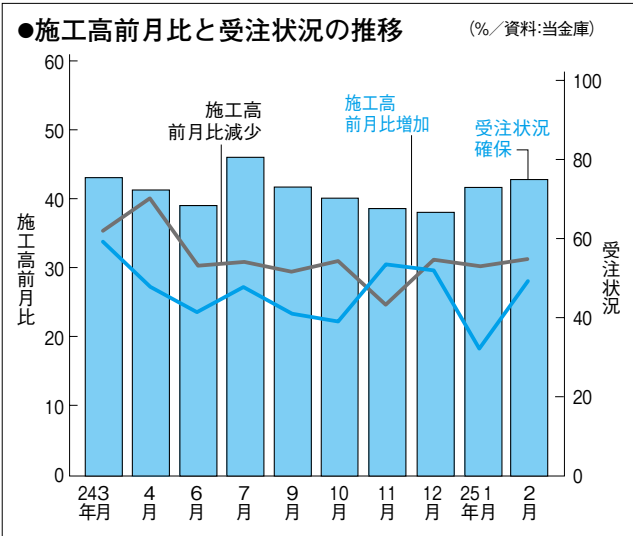
建設業	前月	18.2	51.5	30.3
	今月	増加 28.1	不変 40.6	減少 31.3
総合建設業		75.0	25.0	0.0
土木工事業		21.4	50.0	28.6
建築業		18.2	40.9	40.9
各種設備業		27.3	45.4	27.3

業種別

改善…総合建設・各種設備
悪化…土木工事・建築

受注状況

「多い・適正」企業の割合 (73.0%) → **75.0%**
「少ない」企業の割合 (27.0%) → **25.0%**
受注高月商倍率 (3.4カ月) → **3.3カ月**



企業からのコメント

☆★材料費および販管費の値上げによる利益率低下が顕在化している。それらに順応した販売価格アップに早期軌道修正したい。(総合建設)

☆★毎年のことではあるが、年度末だけ慌ただしい。次々と仕事の依頼が入るが身体はひとつ。歯がゆい。(土木工事)

☆例年に無く、大雪となり除雪売上げは大幅増加している。(総合建設)

4～2月の公共工事 (東日本建設業保証取扱分)

長野県の4～2月の発注合計は、2,159.9億円(前年同期比+8.3%)となりました。前年比増加は「市町村」の661.4億円(同+1.2%)、「その他」の604.3億円(同+50.2%)、減少は「国」の2,673.9億円(同▲13.2%)、「県」の622.6億円(同▲0.6%)でした。

北信地区市町村の発注合計は200.9億円(同▲17.1%)で、うち長野市は94.4億円(同▲6.0%)でした。

●建設業保証取扱分から見た長野県と北信地区市町村の公共工事の状況(2025年2月/2024年4月～2025年2月累計)
(単位=百万円/資料: 東日本建設業保証株)

		2025年2月	前年同月比	2024年4月～2025年2月	前年同期比
長野県	国	1,123	▲52.3%	26,739	▲13.2%
	県	4,112	▲48.5%	62,258	▲0.6%
	市町村	1,792	▲8.3%	66,140	+1.2%
	その他	785	+60.6%	60,432	+50.2%
	合計	7,818	▲38.9%	215,994	+8.3%
北信地区	市町村	361	▲48.7%	20,091	▲17.1%
	(内長野市)	255	▲56.7%	9,444	▲6.0%

4～2月の新設住宅着工戸数

長野県の4～2月の新設住宅着工戸数は10,415戸(前年同期比+1.7%)でした。持家が5,621戸(同+1.2%)、貸家が2,941戸(同▲3.9%)、分譲が1,790戸(同+15.5%)、給与が63戸(同▲8.7%)です。

北信地区の4～2月の新設住宅着工戸数は2,737戸(同▲4.8%)でした。持家が1,446戸(同+0.1%)、貸家が671戸(同▲26.8%)、分譲が616戸(同+21.5%)、給与が4戸(同▲33.3%)です。

●長野県と北信地区の新設住宅着工戸数
(2025年2月/2024年4月～2025年2月累計) (資料:長野県)

		持家	貸家	分譲	給与	合計
長野県	2月	431戸	246戸	103戸	2戸	782戸
	前年同月比	+2.4%	▲18.0%	▲40.8%	——	▲12.6%
	4～2月	5,621戸	2,941戸	1,790戸	63戸	10,415戸
	前年同期比	+1.2%	▲3.9%	+15.5%	▲8.7%	+1.7%
北信地区	2月	100戸	44戸	36戸	1戸	181戸
	前年同月比	+1.0%	▲65.1%	▲67.3%	——	▲46.0%
	(内長野市)	63戸	25戸	15戸	0戸	103戸
	(前年同月比)	▲12.5%	▲67.5%	▲83.7%	——	▲57.3%
	4～2月	1,446戸	671戸	616戸	4戸	2,737戸
前年同期比	+0.1%	▲26.8%	+21.5%	▲33.3%	▲4.8%	

卸小売業

卸売業、小売業

「売上高DI」小売は改善、卸売は悪化

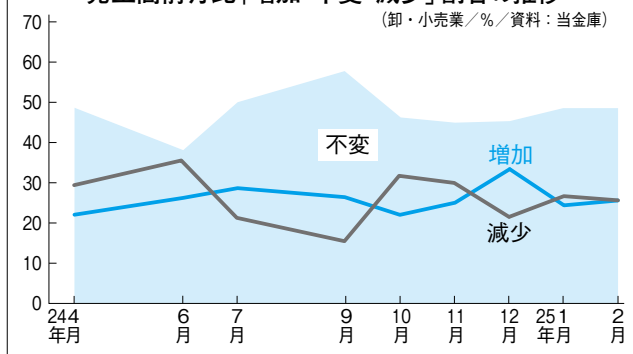
卸小売業の売上高前月比は、増加した企業が25.6%、不変が48.8%、減少が25.6%となり、売上高DIは±0.0となりました。前月調査時の▲2.4から2.4に改善しました。

●売上高前月比「増加・不変・減少」割合(%)

卸小売業	前月	24.4	48.8	26.8
	今月	増加 25.6	不変 48.8	減少 25.6
卸 売 業		17.6	47.1	35.3
小 売 業		30.8	50.0	19.2

●売上高前月比「増加・不変・減少」割合の推移

(卸・小売業/％/資料：当金庫)



【業 種 別】 改善…小売業 悪化…卸売業

2月の消費者物価指数(長野市) 2020年基準=100

◇総合指数(確報値)……112.4(前月比▲0.7)

(前年同月比+3.6%)(42カ月連続プラス)

上昇…「教養娯楽」「保健医療」「住居」

下落…「光熱・水道」「家具・家事用品」「食料」

「被服および履物」「交通・通信」「諸雑費」

◇生鮮食品を除く総合指数…111.4(前月比▲0.3)

(前年同月比+3.0%)(43カ月連続プラス)

企業からのコメント

☆★2月は急な受注が入り、前月より50%増の売上げとなったが、3月は発注元が決算に入り、在庫を減らすため、毎年、受注は減少すると予想している。

(繊維品卸売)

☆★インフルエンザ流行もあり、薬品の需要は高止まりしているが、今後、収まっていく見込みである。

(薬局)

☆★野菜はスーパーが薄利で売る傾向にあるので、売上げが伸びた。果物、特にイチゴは産地の天候が良いので豊作。ただし、単価は安い。(野菜果実卸売)

サービス業

サービス、輸送、外食、観光、不動産

「売上高DI」サービス、輸送、外食ともに減少

サービス業 売上高前月比は、増加した企業が33.3%、不変が33.3%、減少が33.3%となり、売上高DIは前月比40.0に減少の±0.0となりました。

輸送業 売上高前月比は、増加した企業が50.0%、不変が37.5%、悪化が12.5%となり、売上高DIは前月比5.3に減少の+37.5となりました。

外食業 売上高前月比は、増加した企業が57.1%、不変が28.6%、減少が14.3%となり、売上高DIは前月比12.8に減少の+42.8となりました。

観光(旅館)業 入込数は前月比13.2%の減少、前年同月比では10.1%の増加となりました。

不動産業 需給状況は前回に比べ、「双方手控え・どちらも低調」計は横ばいの75.0%、「引合いやや増加」は12.5%増加の12.5%でした。

企業からのコメント

☆インバウンド輸送が前年よりかなり多くなっている。もともとアジア系、オーストラリア、アメリカが多いが、特に中国からの旅行者が増加している。

(タクシー)

☆ドライバーの確保がさらに難しくなっている。年度末の繁忙期(引越シーズン)が乗り切れるか不安である。

(運送)

●売上高前月比「増加・不変・減少」割合(%)

サービス業	前月	60.0	20.0	20.0
	今月	増加 33.3	不変 33.3	減少 33.3
輸送業	前月	57.1	28.6	14.3
	今月	50.0	37.5	12.5
うちタクシー業		100.0	0.0	0.0
うち運輸業		33.3	50.0	16.7
外食業	前月	66.7	22.2	11.1
	今月	57.1	28.6	14.3

ここ1年の「コスト増加状況」

「コスト増加があった」が9割超

「最も影響を受けた費用」

「原材料費」が6割「エネルギー費」が2割「労務費」が1割

企業アンケート

「価格転嫁」①

2025年3月調査

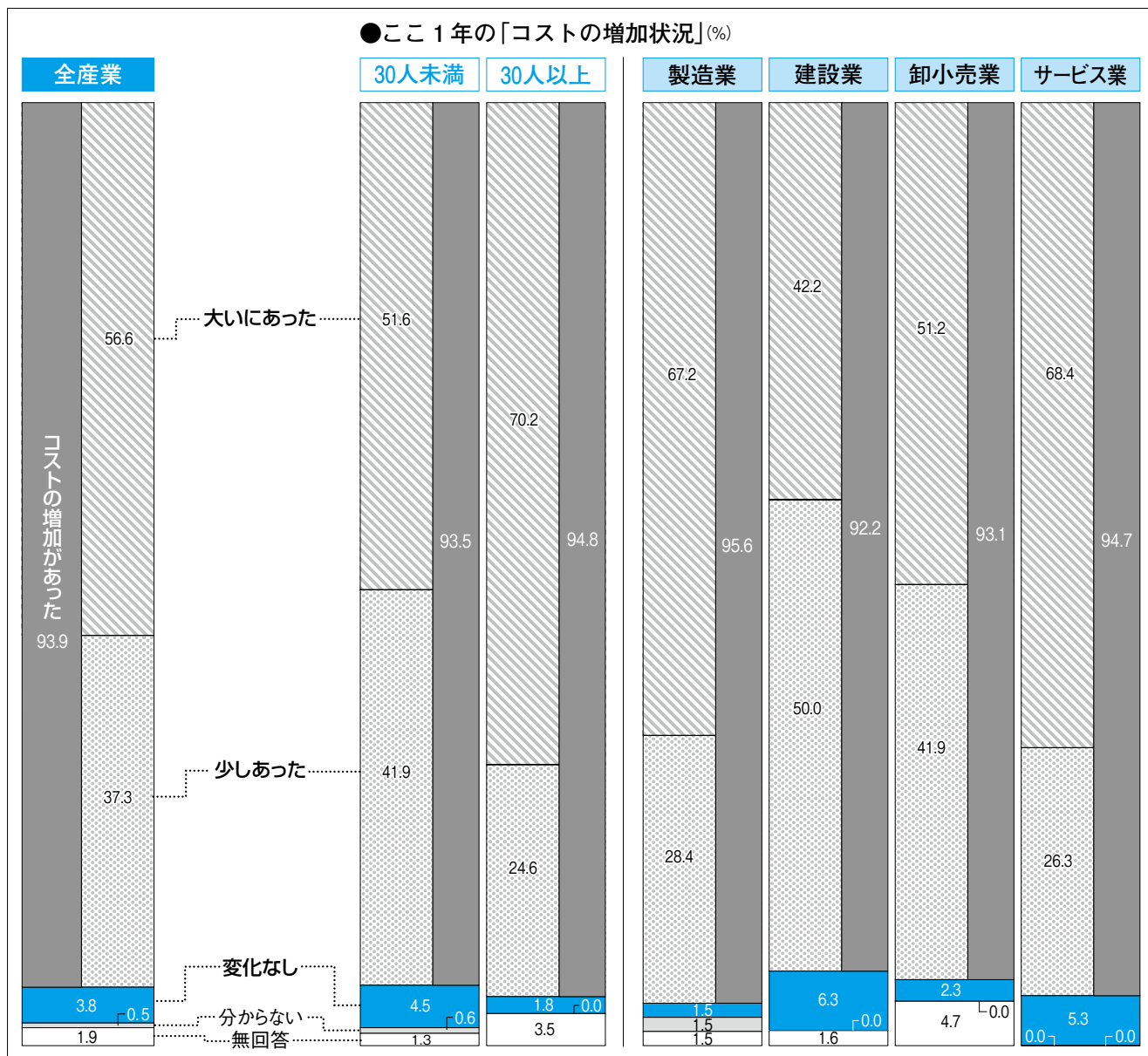
ここ1年の「コストの増加状況」

「ここ1年で実際にコスト（原材料費、エネルギー費、労務費等）の増加があったか」を聞きました。
「大いにあった」56.6%と「少しあった」37.3%を合わせた「コストの増加があった」は93.9%、「変化なし」3.8%と、9割強の企業がコストの増加があったと回答しました。

「コストの増加があった」企業を従業員規模で見ると、30人以上の企業の94.8%に対し、30人未満の企業では93.5%で、大きな差はありませんでした。

業種別

「コストの増加があった」企業を業種別に見ると、高い順に**製造業**（95.6%）、**サービス業**（94.7%）、**卸小売業**（93.1%）、**建設業**（92.2%）となり、大差は



ありませんでした。

「変化なし」の企業割合は、高い順に**建設業**(6.3%)、**サービス業**(5.3%)、**卸小売業**(2.3%)、**製造業**(1.5%)となりました。

コストの増加で「最も影響を受けた費用」

「『コスト増加があった』企業に最も影響を受けた費用はどれか」を聞きました。

「原材料費」(60.3%)がトップで、以下「エネルギー費(ガソリン含む)」(21.1%)、「労務費」(11.6%)、「外注費」(5.0%)、「物流費」(1.0%)となりました。

従業員規模で見ると、30人未満は30人以上より「原材料費」(64.1%)が14.1ポイント、「外注費」(6.2%)

が4.3ポイント高く、30人以上は30人未満より「労務費」(22.2%)が14.6ポイント、「エネルギー費(ガソリン含む)」(25.9%)が6.6ポイント高くなっています。

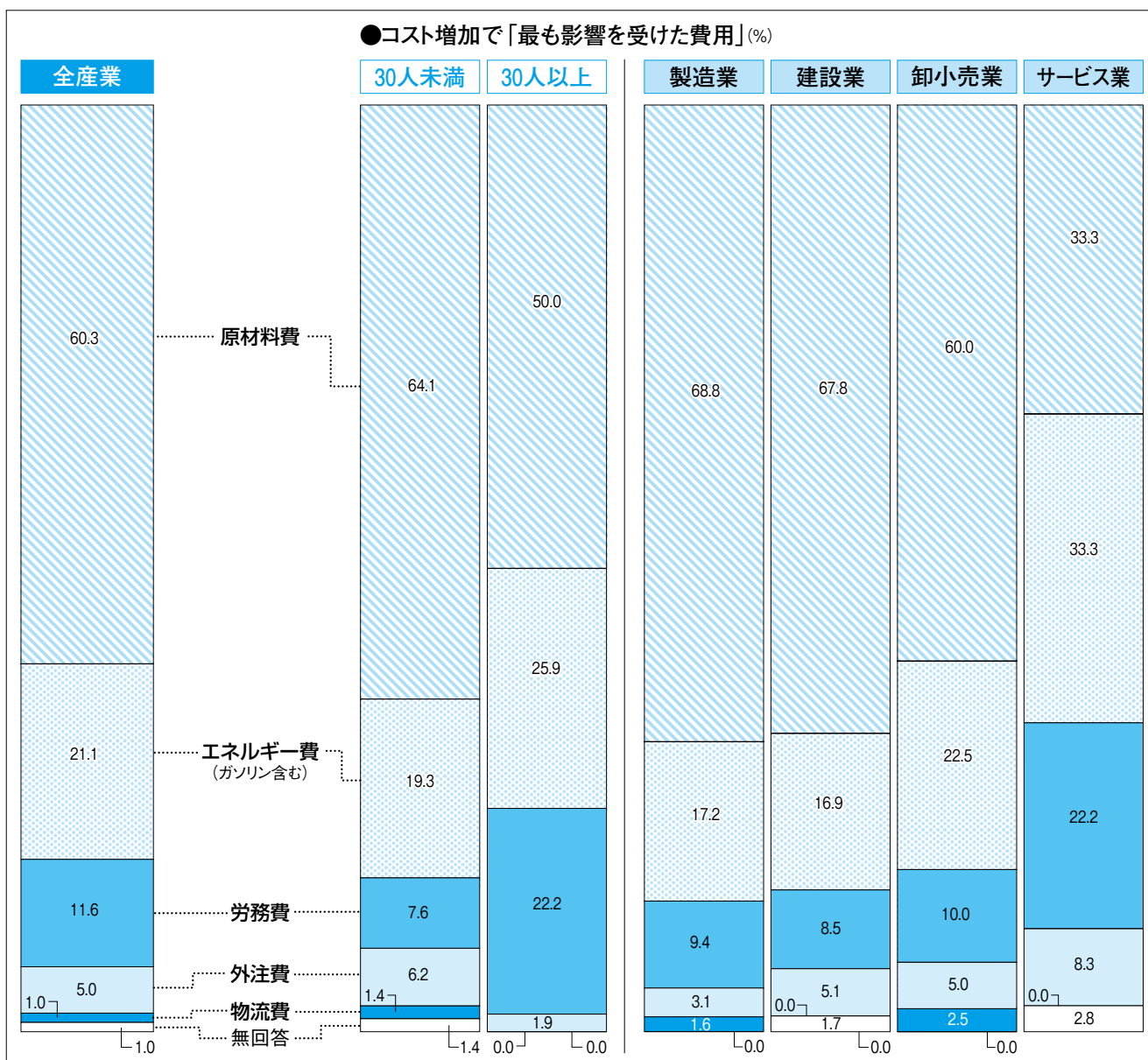
業種別

製造業 「原材料費」(68.8%)は4業種の中で最も高く、他方「外注費」(3.1%)は4業種の中で最も低くなっています。

建設業 「エネルギー費(ガソリン含む)」(16.9%)、「労務費」(8.5%)、「物流費」(0.0%)は4業種の中で最も低くなっています。

卸小売業 「物流費」(2.5%)は4業種の中で最も高くなっています。

サービス業 「エネルギー費(ガソリン含む)」(33.3%)、「労務費」(22.2%)、「外注費」(8.3%)は4業種の



中で最も高く、「原材料費」(33.3%)、「物流費」(0%)は4業種の中で最も低くなっています。

◇次号は「コスト上昇分を自社の製品・サービス価格に上乗せする価格転嫁はどのくらいできているか」と「価格転嫁ができた経緯」を予定。

[調査要領]

実施期日：2025年3月上旬～中旬

調査企業：回収212社(製造業67社、建設業64社、卸小売業43社、サービス業38社)
うち従業員30人未満155社(73.1%)

「価格転嫁」に関する企業からのコメント

製造業

◇このところの価格高騰は全世界が影響を受けているため、価格転嫁に対する顧客の理解も進んではいるが、原価の値上げが先行し、売値の値上げが後追いとなる。また、原価の値上がり分を100%転嫁するのは難しい。(医療機器)

◇コスト上昇に歯止めがかからないため、一度転嫁しても例えば半年後にまた価格交渉しなくてはならず、顧客に何度も交渉することはなかなかできないのが実情である。(精密板金部品)

◇値上げすると販売量は減少してしまう。値上げしないと経営的に苦しい。原材料の見直しや生産性の向上で何とかしている。(食料品)

◇当社はある程度、価格転嫁ができているが、国が指導・バックアップをしてくれていることが大手メーカーの意識に影響し成功につながったと考える。今後は、賃上げをすることにつなげていく必要がある。(包装設計)

◇当社はある程度、価格転嫁を進めているが、一番大事なのは双方のコミュニケーションであると考えている。(金属製品)

◇常にお客さまに情報を開示して、ご納得いただけるように努めた。強引に進めず、しっかり話し合い(協議)しながら進めていった。(食料品)

◇当社取り扱いが業務用食品であるため、比較的問題なく価格転嫁ができた。(業務用食品)

建設業

◇建設にかかる原材料価格の上昇がようやく認知され始めたが、すべてを価格転嫁することは難しい。(総合建設)

◇原材料費のコストアップが頻繁に行われ過ぎて、契約～着工～竣工までの7～8カ月間にさらに原材料費・販管費がアップしてしまう。その分はお客さまからいただくことができないため、粗利が吸収され収益性が低下してしまう。(総合建設)

◇当社は公共工事、準公共事業をメインにしているため、価格が決まっている。そういう意味では価格転嫁できていない。(土木工事)

◇本来であれば、原材料費の値上がり分をすべて価格転嫁したいが、少し様子を見て少しずつ値上げ

をしたいと思う。

(総合建設)

◇当社はある程度、価格転嫁ができていると思っている。得意先に事前にお知らせ・報告したことで、理解が得られた。(造園)

◇さまざまな原材料費が値上がっていることをお客さまが理解してくださり、十分に価格転嫁できている。(一般建築)

卸小売業

◇この物価高の中で当店も値上げせざるを得ないが、価格を上げると売れ行きに影響するのは必至であり難しい。(和洋菓子小売)

◇中小企業での自社努力と、政府の大企業中心政策の感覚がかなり相違している状態と考える。(菓子卸小売)

◇世の中、値上げブームなので、意外にも価格転嫁が容易にできている。(野菜果実卸売)

サービス業

◇値上げ交渉に応じてもらえない。収入の金額より支出の金額の方がどんどん先に決定してしまっている状況。(運輸)

◇燃料の高騰については、業界で燃料サーチャージを検討していて動き始めたが、ノウハウがないため、進捗は難航している。値上げの方向も視野に入れつつ価格転嫁を目指しているところである。(運輸)

◇数カ月前からガソリンの仕入れを長野の業者から東京の業者に変更し、安く仕入れている。それ以前から長野県ガソリン価格談合カルテルを疑っていた。(運輸)

◇食品材料の値上げが多く、来期から多少の値上げを計画している。小売とは違い、宿泊業の値上げは若干受け入れられにくいと感じているので、段階を踏まえて適応していく。(旅館)

◇外国人には影響は少ないと感じるが、日本人客は明らかに値上げを敬遠しており、日本人客離れが懸念される。(宿泊)

◇食事処の原材料価格の値上げが続いており、一旦値上げを実施したが、まだ十分に価格転嫁できていない。(温浴施設)

◆物価高の上昇で「上昇を感じる費目」

「自宅での食事」「光熱費(ガス・電気)」「自動車関係費(ガソリン含む)」

◆「自宅での食事」で、物価高を感じる具体的な価格

「生鮮野菜類」「米を中心とする穀類」「たまご類」

生活者アンケート

「物価高の影響」①

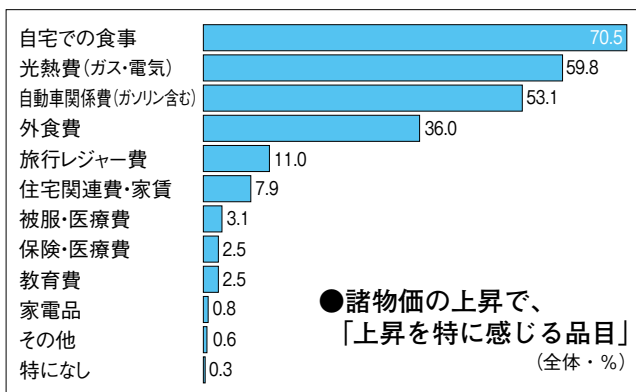
2025年3月調査

「諸物価の上昇が目立ちますが、『上昇を特に感じている品目』は何か」を聞きました。

全体の1～3位を見ると、「自宅での食事」70.5%、「光熱費(ガス・電気)」59.8%、「自動車関係費(ガソリン含む)」53.1%となっています。

男女別で見ると、男女ともに全体と同じ順位になりました。

世代別で見ると、10～20代は「自動車関係費」「自宅での食事」「光熱費」でした。30～40代と50代以上は全体と同じ順位になりました。

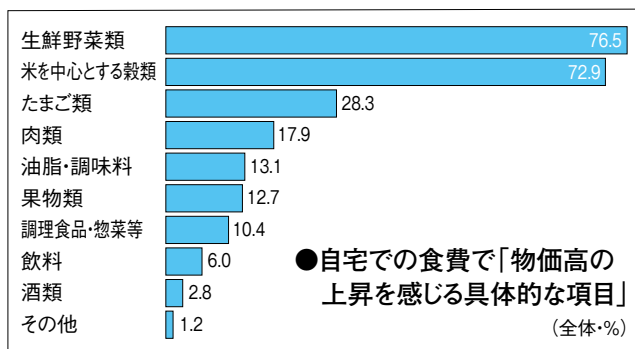


「『自宅での食事』で物価高の上昇を感じる具体的な項目は何か」を聞きました。

全体の1～3位を見ると、「生鮮野菜類」76.5%、「米を中心とする穀類」72.9%、「たまご類」28.3%となっています。

男女別で見ると、男性は「米を中心とする穀類」「生鮮野菜類」「たまご類」の順でした。女性は全体と同様の順位となりました。

世代別で見ると、10～20代と30～40代は全体と同様の順位で、50代以上は「米を中心とする穀類」「生鮮野菜類」「たまご類」となっています。



【調査要項】 ○実施期日：2025年3月上旬～中旬

○実施場所：長野信用金庫本支店窓口

○調査数：356人(男性190人・女性166人)

○調査要領：アンケート用紙に記述(無記名)

「物価高の影響」に関する生活者からのコメント

- ◇特に物価が上昇していると感じるのは、食料品。中でもお米の高さには驚いている。以前は10kgのお米を買っていたが、最近は5kgずつ買うことも多くなった。食料は生きていく上で必要不可欠なので、これ以上物価が上がらないと良いと思う。(20代女性)
- ◇外食をする際に、物価上昇を強く感じる。便乗値上げも目につく。(20代男性)
- ◇物価上昇に対して、賃金の上昇が追いついていないと感じる。大企業は上昇しているが、中小企業は厳しい。消費税の減税により、経済を安定させるべき。
- ◇長野県はガソリンが他県に比べて高く、通勤手段以外にも車を移動手段として多用しているので、とても負担に感じる。(以上、30代男性)
- ◇諸外国は物価が高くても、その分賃金も高い傾向にある。一方、日本では物価は上がっていくが賃金は上がらず生活に悪影響を与えている。国は税金をもっと必要な政策に使ってほしい。(30代女性)
- ◇物価の上昇による食費の増加は子供たちの食費もあるため抑えることが難しく、必要な物のみ購入し、欲し

- い物は極力控えるようにしている。(40代男性)
- ◇一番子供にお金がかかる時に物価の上昇が止まらず、節約だけでは対応が難しい状況にきている。(40代女性)
- ◇米、たまご、野菜…どこまでも上がっていきそうで不安しかない。一方でフードロスが減っていないとの報道も。矛盾していると思う。(50代女性)
- ◇多少の物価高は、仕方がないことは理解するが、ガソリンのカルテル疑惑のように一部の人間が私腹を肥やすことはあってはならないと思う。政治も国民目線に立ち、国民のための政治を目指してほしい。(50代男性)
- ◇コロナ禍での景気後退が続き、ようやく回復傾向に転じている。物価の上昇は年金生活者を直撃しているが、景気回復時の現象と受け止め、できる努力をしていこうと思う。(60代男性)
- ◇デフレの時は「物価が上がらない」とマスコミが大騒ぎ。物価が上がってくると「インフレ」「高い」と大騒ぎ。惑わされず、マイペースで生活することを心がけたい。(60代女性)

北信濃の旅人

(1)河鍋暁斎

長野郷土史研究会会長

小林 一郎



河鍋暁斎

河鍋暁斎(1831~89)は、幕末から明治時代にかけて活躍した絵師です。初めは狂斎と書いていましたが、明治時代になって暁斎と改めました。字を入れ替えただけなので、暁斎と書いても「きょうさい」と読むのが正式とされています。明治時代にイギリスから招聘されて、御茶ノ水のニコライ堂や今はない鹿鳴館などを手掛けた建築家ジョサイア・コンドル(1852~1920)が、暁斎の弟子となって日本画を学んだことはよく知られています。

暁斎信州へ

その河鍋暁斎が信州を旅したのは、江戸時代も終わりに近い慶応元年(1865)で、その旅行記を門人の瓜生政和が『暁斎画談』(外編卷之二)にまとめています。この本は、暁斎が旅行中に描いた絵をそのまま使って、明治20年(1887)に出版されまし

た。この『暁斎画談』によって、暁斎の信州への旅を見ていきましょう。

暁斎が門人の杉本留吉を連れて江戸の湯島の自宅を出発したのは、慶應元年(1865)3月下旬のことでした。中山道をたどって信州に入ると、絵に描きたい景色ばかりで、何を描くべきか迷うほどです。まず万字峠(碓氷峠か)の眺望を写生し、大久保川(小諸市)の遠景を描き、佐久郡第一の美観とされる布引き観音釈尊寺(小諸市)の景色を写しました。

小布施へ行く途中の出来事

暁斎はかねてから交流のあった小布施の高井鴻山を訪ねるため、北信濃に足を踏み入れました。矢代(屋代)宿からは、松代、須坂を通して小布施に向かう千曲川右岸の道をたどりしました。

その途中のことです。行く先に松の大木があっ



千曲川(実際は裾花川か)の洪水に逃げまどう人々(『暁斎画談』外編卷之二)

て、その交わされた枝を通して山々を見た光景がすばらしかったので、早速筆を取り出して写生にかかりました。その間、留吉には木の枝を集めてたき火をさせ、燗鍋で酒を温めさせました。

そこへ現れたのは、1人の荒くれ男です。「やあやあ、おまえたちは俺の土地で勝手に火をたいたな。許せん」ところが暁斎も負けていません。「たとえおまえの土地でも、囲ってなければただの空き地だ」「何と生意気な。ここは松代藩領だぞ。逃げ出したところで、逃げ出せはせん。待っておれ」と言い捨てて、男は走り去りました。

暁斎はたき火を消させて、留吉を連れてまた歩き出しました。しばらく行くと茶屋があったので、立ち寄って店の老婆にその話をすると、老婆は茶を持って来て言いました。「それは〇〇という名の、村はずれにいる悪者です。仲間を集めて、お金をゆすろうとするでしょう。このまま行くと、わなにはまります」

そこで暁斎は、留吉に目配せして、茶代を置いて茶店を出ました。元の道を引き返し、老婆から見えない所まで来ると、雑木林の中へ入り、道なき道を行きました。半時(1時間)ほど行くと流れの速い小川のほとりに出て、その先へは進めません。

2人がため息をついていると、川の向こう側の道を牛を引いて通る人がいます。呼び止めて訳を話すと、「それは〇〇とって、この辺りでは有名な悪者です。早く逃げなさい」と言って、引いていた牛に乗って川を渡って来て、2人を牛に乗せて川を渡してくれました。

小布施に行く道も教えてくれたので、2人は牛の男にわずかばかりのお礼を差し出し、道を急いだのでした。

洪水の惨状を描く

小布施の高井鴻山方では、引き留められて、屏



小布施町の高井鴻山記念館。河鍋暁斎が滞在した高井鴻山邸跡

風、襖などに絵を描かされてきりがないので、7、8日でやめ、あとは帰途にまた描くと約束して、逃げるように小布施を出ました。

やって来たのは善光寺の門前です。善光寺宿(大門町)の旅籠佐渡屋小右衛門方に逗留して、近くの名所旧跡を巡っては描き、また所望に応じて描いたりしているうちに、いつしか梅雨末期の大雨の季節になっていました。ことに閏5月25日(現在の7月17日)の夜から降り出した強い雨は、27日の朝まで降り続き、千曲川の大洪水を引き起こしました。

暁斎は28日の朝、佐渡屋の主人の案内で洪水の現場を訪れ、その惨状を絵に描きました。『暁斎画談』はそれについて、「家を流され、壁を崩され、それを避けようとして溺れ、あるいはけがをして、助け合いながら避難する様子は、実に哀れであった」(現代語訳)と記しています。

『暁斎画談』はこれを千曲川の洪水としています。が、暁斎が見たのは実際には裾花川の洪水であったようです。この時、長野県庁南方の岡田地籍で裾花川が決壊し、現在の長野駅方面が本流のようになったという記録が残っています。

5月号は「河鍋暁斎(2)」の予定です。

◆物価高による「節約」

「節約している」9割弱 「全く節約していない」1割

「物価高にともなって、どのくらい節約しているか」を聞きました。

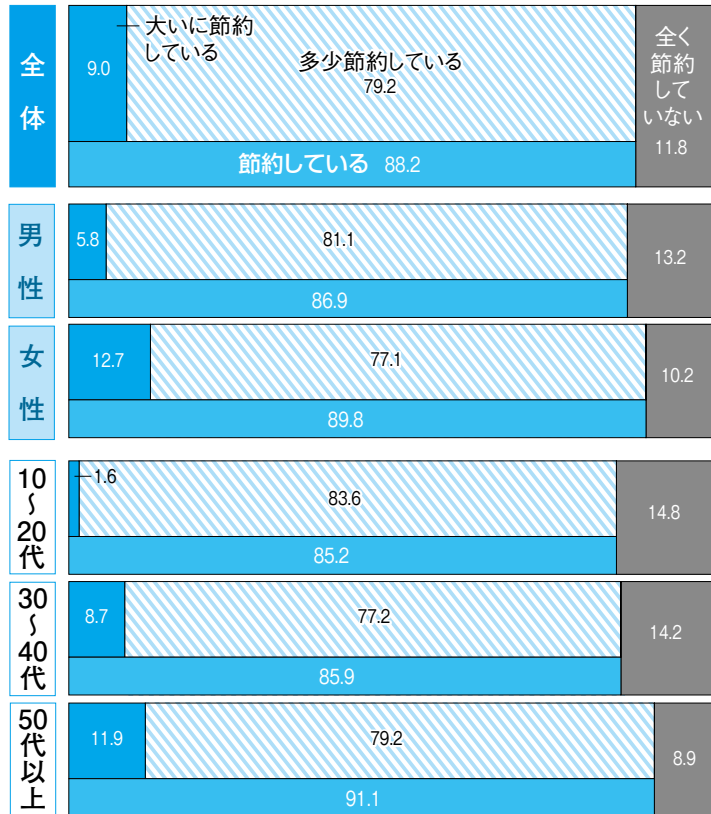
全体を見ると、「大いに節約している」(9.0%)と「多少節約している」(79.2%)を合わせた「節約している」は88.2%となりました。逆に11.8%の方は「全く節約していない」と回答しています。

男女別を見ると、「節約している」人は、男性(86.9%)、女性(89.8%)となり、僅差ですが女性の方が節約志向が高い結果となりました。

世代別で見ると、「節約している」人は、10～20代(85.2%)、30～40代(85.9%)、50代以上(91.1%)となり、僅差ですが年代が上がるにつれ節約志向が高い結果となっています。

(当金庫・2025年3月調査)

●物価高による「節約」(%)



●みなさまの税務相談のご案内 [5月]

(注)上の店名は開催場所、下の()内店名はその相談日に含まれる対象店です。

開催日	午前	午後	開催日	午前	午後
5月 2日 金	城北支店 (若槻支店)	柳原支店 (東長野支店)	5月 21日 水	若穂支店	小布施支店 (中野支店)
8日 木	南支店 (七瀬支店)	吉田支店 (古里支店)	22日 木	屋代支店 (稲荷山支店)	戸倉支店 (上山田支店・坂城支店)
9日 金	更北支店 (松代支店)	伊勢宮支店 (石堂支店)	23日 金	大門町支店 (桜枝町支店)	善光寺下支店 (権堂支店)
13日 火	篠ノ井支店 (川柳支店)	川中島駅前支店 (川中島支店)	27日 火	本店営業部	
14日 水	大豆島支店 (長池支店)		28日 水	本部	
16日 金	須坂支店 (墨坂支店・太子町支店)	飯山支店 (山ノ内支店)	29日 木	本部	



長野信用金庫 総合企画部

本店 〒380-8686 長野市居町 133-1 TEL 026-228-0221(代)

長野信用金庫 URL <https://www.nagano-shinkin.jp/>

